

QUARTET

九州大学四国県人会が故郷四国を発信するフリーペーパー、カルテット。

筑後川・利根川・吉野川。
三兄弟なのは、ご存知でした？

Vol. 8
2017.10

Take Free

特集 | 徳島市・三好市

九州大学四国県人会 × 筑波大学四国合同県人会

QUARTET

四重奏、カルテット。



2017年 秋号

CONTENTS

04 特集 徳島県徳島市 三好市

阿波踊り会館

かずら橋

ナイスラフティング

阿波のうまいもん

12 JR徳島線 学駅

13 コラム①九州大学・筑波大学徹底比較!

14 コラム②四国への行き方

15 編集後記



表紙の写真>>>

徳島市内を流れる一級河川・吉野川

吉野川は、「四国三郎」という異名を持ちます。

かの有名な利根川は「坂東太郎」、

私たちが住む九州の筑後川は「筑後次郎」とも呼ばれます。

日本三大暴れ川にニックネームがあるのはおもしろいですね。

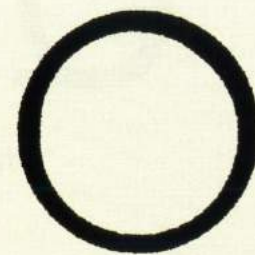
SHIN
KURUSHIMA
SOMETHING NEW!

船
ぞ
つ
た
。

乗
り
物
は
、

は
じ
め
て
創
っ
た

人
類
が
、



はるかな昔。

この乗り物を最初に創った
よこかの名も無き挑戦者が
ひれぼの夢と情熱をこめて
その船づくりは挑んだのが、
わろしえちは、知っている。

彼の眼前はよこまでも続く
蒼く美しく広がる水平線が
その船づくりは臨む情熱を
よれほど強く掻き立てたのが、
わろしえちは、知っている。

何千年もの時代が過ぎても
その挑戦者の夢と情熱とは、
わろしえち技術者達の胸に
今も変わらぬ、生きている。

船造りには、ロマンがある。

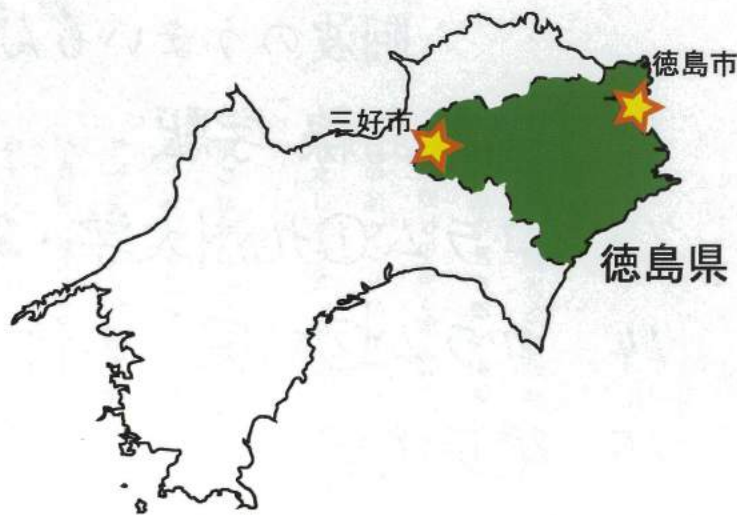
でっかい仕事で、
いこうじゃないか。

特集 徳島県徳島市 三好市

一かけ二かけ三かけて
 四（し）かけた踊りは止められぬ♪
 五かけ六かけ七かけて
 ハ（や）っぱり踊りは止められぬ♪



この掛け声を聞くと、体が自然と動き出す。そう、これは阿波踊りの掛け声だ。お盆の時期には、徳島県内各地で阿波踊りが行われ、掛け声とともに多くの人が舞い踊る。取材班一行は徳島駅周辺を練り歩いた。歩行者天国と化した徳島駅周辺では、各々の連（踊りのグループ）が踊る様子を楽しめるだけでなく、飛び入り参加OKのにわか連で踊ることもできる。取材中も、「踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにゃ損損」の言葉通り、多くの観光客が次々と踊りに加わっていった。中でも、吉野川のほとりで、男踊り・女踊り・子ども踊りが一体となって舞台を作る姿は圧巻だった。確かに、お盆の時期は何かと忙しいといった方もいるだろう。だが、心配はご無用。8月の4日間だけしか徳島では見ることができなかった阿波踊りが、ここ阿波踊り会館では一年中楽しめるようになったのだ。



徳島市	
人口	258554人
面積	191.25平方キロメートル
アクセス	岡山から特急うずしおで2時間12分
三好市	
人口	268361人
面積	721.42平方キロメートル
アクセス	岡山から特急南風で約1時間半

※人口・面積データは平成27年度国勢調査より

阿波踊り会館

開館時間
 9:00 ~ 21:00
 徳島市新町橋 2-20
 Tel: 088-611-1612

眉山ロープウェイ

運行時間
 4/1 ~ 10/31 は 9:00 ~ 21:00
 11/1 ~ 3/31 は 9:00 ~ 17:30
 ※8/12 ~ 8/15 は 9:00 ~ 22:00
 Tel: 088-652-3617
 (阿波おどり会館 5階から乗車)

会館2Fにある阿波おどりホールでは、毎日2公演が行われ、昼の部では専属連、夜の部では有名連による阿波踊りを楽しむことができる。また、講演中の「阿波踊り体験コーナー」では、アドバイスを受けながら阿波踊りを踊ることもできる。また、3Fにある「阿波おどりミュージアム」では、阿波踊りの歩んできた歴史及びその魅力を余すところなく紹介している。阿波踊りのルーツである「組踊り」や「俄（にわか）」に関するお触書が頻繁に出された。主な内容は以下の通りである。

- 一、盆踊りは七月一四日から一六日までの三日間に限ること。
- 二、家中は盆の三日間の外出を禁じられ、どうしても踊りたければ門を閉ざした屋敷内で踊ること。
- 三、諸寺院に踊り込むことを厳禁する。

藩がこのように規制するほど、踊りは盛んだったのである。規制を受けつつも、阿波の地で踊りは芸能として発展していき現在の阿波踊りとなった。

また、阿波踊り会館の最上階は眉山ロープウェイ山麓駅となっており、眉山展望台まで約6分間、空の旅を楽しめる。展望台からは、徳島の街並みや四国三郎と呼ばれる吉野川、遠くは淡路島や和歌山県を臨むことができる。暑い時期には、休憩所で景色を眺めつつ、すだちジュースやすだちハニーかき氷を味わうのも一興だ。ロープウェイは4月から10月末まで21時まで運行しており、夜景鑑賞も人気という。ぜひ堪能あれ。



←眉山ロープウェイ

15分間隔で運行。
 2つのゴンドラに
 計20人ほどが搭乗可。
 片道610円、往復1020円。



↑展望台から見た景色



↑周遊船から見た阿波踊り会場



すだちハニーかき氷→
 すだちの
 さっぱりとした酸味と、
 ハチミツの甘さが
 絶妙にマッチ。
 400円。

祖谷のかずら橋



徳島県北西部、四国山脈の内部にある町、三好市にそれは存在する。かつては祖谷いやと呼ばれ、今では日本三大秘境の一つに数えられている。そこは剣山がそびえたち、山々の間には吉野川が流れ、整備された車道は横幅が車一つ分、横を見れば山肌、反対を見ればガードレールを挟んで崖がある。そんな道を最寄駅から数十分かけて走ればそれは姿を現す。はたから見れば木と蔓でできたただのみずぼらしい橋、かずら橋である。かずら橋は日本三奇橋の一つであり、重要有形民俗文化財に指定されている。私も実際に渡ってみたが、吊り橋であるため、歩くだけでも揺れが生じる。足場は不ぞろいの細い角材で、敷き詰められているわけではなく、25センチほどの間隔で角材が両端に伸びている。そのため、橋にかけてある角材よりも隙間の方が総面積が大きくなる。そうならば当然下を見れば下の景色が丸見えで、橋の上から吉野川の水が流れる様子を真上から見ることができるといえる。かずら橋は山の中腹にかけられている橋であるため、かなりの高さで、スリルがある。さらに橋の下には安全網などは敷かれておらず、命綱も当然つけていない。なので、万が一かずら橋から落ちるようなことがあれば文字通り吉野川まで真っ逆さまである。だが、無論そんな事故が起きたという記録はない。足を踏み外したとしても落ちることはないだろう。



かずら橋といわれてまず連想するのは平家伝説だろう。平家伝説はもう一つの平家物語と呼ばれ、壇ノ浦で負けた平家の落人が阿讃山脈を越えて祖谷に逃げてきてからの平家の物語だ。

「徳島県三好市の祖谷には、幼い安徳天皇と平教経のりつね（のちに「国盛」に改名）一行がこの地に逃れ平家再興の望みをつないだという『もうひとつの平家物語』が語り伝えられています。」

一一八四年の壇ノ浦の戦いに敗れ、平氏一門の武将たちは覚悟を決め、海に入水し、幼い安徳天皇も祖母である二位尼に抱かれて、西の海に身を投げたといわれています。

また、祖谷平家伝説の主人公の一人、平教経（以下、平国盛）も源氏の武者一人を道連れに海に沈んだといわれています。

しかし、壇ノ浦で亡くなったといわれる安徳天皇も平国盛も、実は影武者だった…。屋島の戦いで敗れた後、平国盛（教経）の一行は、ひそかに幼い安徳天皇をお守りしながら、この祖谷の地にやって来ました。そして、山深い祖谷の地で、平氏再興の望みをつないでいたといわれています。」

(<http://nishi-awa.jp/hei/kei/html/story/> より引用)

もちろんかずら橋も平家伝説に関係しており、かずら橋の起源は平家の人々が追っつてから逃れるためにすぐに切り落とせるようにするために蔓で橋を作ったという言い伝えがある。

かずら橋のある祖谷という町は現在では過疎地となり、人口も徐々に減っている町であるが、歴史的・民俗学的に見れば重要な場所であるということが分かるだろう。ここには掲載していないが、観光事業に力を入れているため他にも見どころがたくさんある場所である。かずら橋や平家伝説に興味のある人はもちろん、そうでない人にとっても観光を目的として訪れてみてはいかがだろうか。



祖谷のかずら橋

三好市西祖谷山村善徳 162-2

大人：550円 小人：350円

営業：年中無休 日の出～日没





ナイスラフティング

営業時間 9:00～18:00 (不定休)

徳島県三好市
池田町大利下大田 38-1

Tel: 0883-74-5136

※季節によってはツアーがないので、
公式ホームページで要チェック

また吉野川のラフティングにおける激流のグレードは5段階評価のうち3であり、場所によっては日本唯一の4の評価を受けている。そのため今年のラフティング世界選手権のステージとしても選ばれており、10月2日から9日の期間で開催される。世界各国の選手が出場しており、日本からはオープン、マスターズ、ユース、ジュニアの各部門にそれぞれ男女1チームずつ参加する。今までの世界選手権で好成績を残しているチームもあり、今大会でも期待大である。そして今大会で用いられるコースは本格激流ラフティングコースのものと同じである。世界選手権のコースとして選ばれた吉野川、ぜひ体験してほしい。

四国・吉野川 ナイスラフティング



↑同じグループになった女性2人組と。
自然と笑顔になれる楽しさ。



ウエットスーツに身をつつむ取材班→

阿波池田駅から車で15分、蛇行した川に沿って進む車で揺られながら人里から少し離れた所にあるナイスラフティングのベースに到着した。ナイスラフティングでは阿波池田駅から無料で送迎サービスを行っている。今回私たちはそのお世話になった。到着してからウエットスーツとリバーシューズを受け取り、服を着替えた。その後、救命胴衣とパドルの貸し出しを受け、ラフティングのスタート地点までバスに乗って再び移動。バスではスタッフのトークで盛り上がり、到着後ボートに乗って説明を受けた。そしていざラフティングスタート！スタッフの話によると本格激流ラフティングコースには難所が全体で7か所あり、午前部ではそのうち4つを体験した。道中流れの緩やかなところでは川に飛び込んで泳ぎ、ボートを漕いで火照った体を川のひんやりした水で冷やした。途中岩場で休憩した時には、高さ2メートルから川にダイブした。他にもスタッフに誘導されてボートの上に立ち上がると別のボートに乗っていた人が私たちのボートを揺らして川に落とされたり、ボートの片方に集められてボートを横転させられたりと途中で飽きないものだった。またラフティングのコースは渓谷であり、川から眺めると壮大な景色であった。左右は切り立った崖で、崖の上には森がありその規模に圧倒された。余裕がある人は周囲の景色にも目を向けてみてはどうだろうか。他にも私たちは参加しなかった本格激流ラフティングツアー以外にもわくわくファミリーラフティングコースもある。全長は約5キロメートルで難所は2か所あり、子連れの家族でも気軽に楽しめる。

取材班おすすめ！！



あわ波の

うまいもん



「徳島のグルメ」と聞くと読者のみなさんはまず何を連想するだろうか。新鮮な酸味と香りでも小鉢を彩るスダチも良いし、多彩な具が特徴的な徳島ラーメンも良い。だが今回は、徳島の秘境祖谷（いや）が誇る味、川魚の塩焼きと「でこまわし」、そして祖谷そばについて紹介しよう。取材班一行が肝を冷やしながらも祖谷のかずら橋を渡り切り、小腹をすかせていたころ、どこからか食欲をそそる香りがしてきた。匂いの方向へと歩いていくと、アユやアメゴといった川魚が串に刺されたまま炭火で焼かれていた。筆者が頂いたアユは、腹部によく身が詰まっているばかりでなく、背中に脂がよくのっておりその旨味を大いに味わうことができる。徳島でよく採れる川魚のアメゴ（他の地方ではアマゴと呼ぶ）は川魚独特のクセがなく、あっさりとした食感のため、苦手意識を持っている人でも美味しく頂けるのではないだろうか。日本有数の清流と名高い吉野川で育った新鮮な魚を昔ながらの炭火で火を通し、アツアツになった身を口いっぱい頬張る……。この贅沢を読者のみなさんにもぜひ体験して頂きたい。また、川魚と一緒に焼かれていた「でこまわし」についても触れておきたい。でこまわしは、ジャガイモ、豆腐、こんにゃくを竹串に刺し、みそだれをつけて炭火で焼く田楽のことである。調理の過程で田楽を回しながら焼くのだが、その様子がまるで「でこ」（人形）に見えるとの理由でこの名がついたとされる。よく火の通った具材にみそだれの素朴な味が非常にマッチしており、とても味わい深い。川魚の塩焼きももちろん良いが、ただの田楽とは異なる伝統の味もぜひご賞味あれ。

取材班一行が祖谷に滞在した2日間のうち、食事にはほぼ毎回出てきた料理がある。長年にわたり祖谷地域で受け継がれてきた郷土料理、祖谷そばである。祖谷地域は昼夜の寒暖差が大きく、やせた土壌が特徴である。そのため寒冷地を好み、やせ地でも育つそばの栽培に適した地域なのである。祖谷そばは普通のそばとは異なり、そば打ちの際に小麦粉などの「つなぎ」をほとんど使用しない。ゆえに麺が切れやすく、また、その一本一本が太くて短くという特徴を持つ。少しばかり不揃いな見た目の麺は食感・喉ごしともに良く、さらさらつと箸を進めることができる。地元で採れた良質な蕎麦の実、吉野川の清らかな水と、自然の恵みをこれでもかと生かしているため、蕎麦本来の豊かな香りと素朴な味わいを堪能できる。

日本有数の秘境との言われのある祖谷で古来から継承される伝統の味。祖谷を訪れた際に試してみたい手はないだろう。



←アユの塩焼き

1本 300円程度でいただける。
川魚本来の味わい。



祖谷そば→

一福亭（阿波池田駅から徒歩3分）
600円～990円
祖谷そばつきランチあり。



九州大学 VS 筑波大学 徹底比較

今回は、筑波大学四国同人会とのコラボということで、九州大学と筑波大学を比較してみました！

両大学の学生の間では、どちらの大学のほうが田舎で不便かというトークで盛り上がる人が多いのだとか・・・

西 West

東 East

九州大学	項目	筑波大学
18569人	学生数	16653人 9学群・23学類、 大学院8研究科・グローバル教育院
11学部+1プログラム(H30年に共創学部設置)18学府		
275ha(伊都キャンパス) ヤフオクドーム40個分！！	単一キャンパス面積	257ha(筑波キャンパス) 幕張メッセ 12個分！！
425万冊 約3%(平成28年度入学者)	附属図書館蔵書数	266万冊(スタバ併設) 約2%(H29年度入学者)
伊都キャンパス 最寄り駅(周船寺)から徒歩50分 博多から最寄り駅まで地下鉄空港線・筑肥線で30分 大学方面最終バスは平日23:23、土日祝22:30発	主要キャンパスへのアクセス	筑波キャンパス:つくば駅から徒歩40分 最寄り駅まで、つくばエクスプレス(通称TX)で 秋葉原~つくば間最速45分 つくば駅から出る大学循環バスの最終便は22:35発
箱崎キャンパス 地下鉄空港線・箱崎線で博多から15分 平成30年秋の伊都への移転を目指し、一部解体中 新入生同士で自分の夢・目標を語り合う基幹教育セミナー 学部混合のクラスで議論する課題協学 アントレプレナーシップ関連教育(QREC)		
自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい 価値創造にチャレンジするリーダー人材の輩出を狙う	特色ある授業	クラス内での友好を深める 「フレッシュマンセミナー」や「クラスセミナー」 『IMAGINE THE FUTURE. 未来構想大学講座』 未来志向型グローバル人材の育成を図ることを 目的とし、全学学生を対象とした科目 (総合科目、自由科目(特設))として、 産業界等と連携し学外から講師を招き開設する科目
	教育プログラム	12~2月は最低-3℃~最高15℃。11月も最低5℃、3月でも最低1℃。寒さが厳しくつくばおろしと呼ばれる。学生寮の部屋に浴室はなく、有料シャワーで温まる。洗濯も有料。
伊都風:季節に関係なく吹く。傘が一瞬で壊れることも。 黄砂やPM2.5を運んでくることもある。 伊都臭:大学近くの牛舎からのにおいは広範囲かつ強烈。 学生寮の部屋に浴室はあるが、洗濯は有料。	特徴的な気候	



下段左: マイナビニュースより写真引用
<http://news.mynavi.jp/news/2014/12/09/150/>

徳島県吉野川市川島町にその駅は舎を構える。そう、学(がく)駅である。一見すると何の変哲もない、田舎にありがちな寂れた無人駅、というのが正直な印象である。この駅だが、こうして紹介するだけのいわれを持つ、知る人ぞ知る名物的な駅なのだ。駅の名前に注目してほしい。否が応でも勉学に関する事柄を想起させるこの駅名、その由来はとある故事に起因する。

その昔、この土地には「了慶寺」という寺があり、そこには学徳の高い名僧がいた。名僧のもとには学問を習おうと大勢の人々が各地から集まったという。そこからこの地域には「学」の名になったのだ。

この縁起にあやかり、学駅では学業成就を祈るPRがなされている。例えば学駅の切符は右端上部に入場券の「入」、下部には駅名の「学」がそれぞれ印字され、これを5枚集めると「ご入学」という語呂が出来上がるわけだ。また、受験シーズンが本格化する年明けからは徳島駅隣接の車両基地で使われている空転防止用の砂を「すべらない砂」として切符の特典とするなど、受験生を応援するための縁起担ぎに力を注いでいる。地元の人々、特に入学試験が控える学生たちにとって学駅はまさに天満宮的存在なのだ。大事な試験が待ち受けている、単位が危ない…なんて読者のみなさんはこの駅の縁起にすがってみても良いのではないだろうか。

JR 徳島線 (よしの川ブルーライン)



編集後記

このたびは、QUARTET 第8号を手にとっていただき、ありがとうございます。前号の発刊から、1年半のブランクが空いてしまいましたが、おかげさまで復活することができました。今号は、筑波大学四国合同県人会とコラボレーションさせていただくことができ、光栄に思います。今号で取り上げました場所は、鉄道好き・自然好き・絶景好き・アウトドア好き・旅行好き等、様々な趣味を持った皆様も楽しんでいただけたところであると確信しております。このフリーペーパーが徳島県への興味のきっかけとなれば嬉しく思います。阿波踊りシーズンで忙しいにもかかわらず、取材を快く引き受けてくださった取材地の皆様、取材・執筆・配布にご協力くださった筑波大学四国合同県人会の皆様、記事ダメ出しにご協力いただいた編集長の知人の5名の方々など、多くの方々に感謝申し上げます。

編集長 田辺梨紗



取材旅行メンバーと水玉連の皆様
阿波踊り会館にて
(2017/08/13)

QUARTET vol.8

発行日 2017年10月7日

発行 九州大学四国県人会

編集長 田辺梨紗

(21世紀プログラム3年/愛媛)

制作 QUARTET 編集部

横山大幹

(工学部地球環境工学科2年/香川)

土井裕太郎

(工学部物質科学工学科2年/香川)

Special Thanks

記事執筆 清家と樹さん

(筑波大学生物学類2年/徳島)

森 祐貴さん

(筑波大学文化学類2年/徳島)

校正協力 K.Oさん Y.Mさん H.Sさん

F.Sさん A.Tさん

配布協力 筑波大学四国合同県人会の皆様

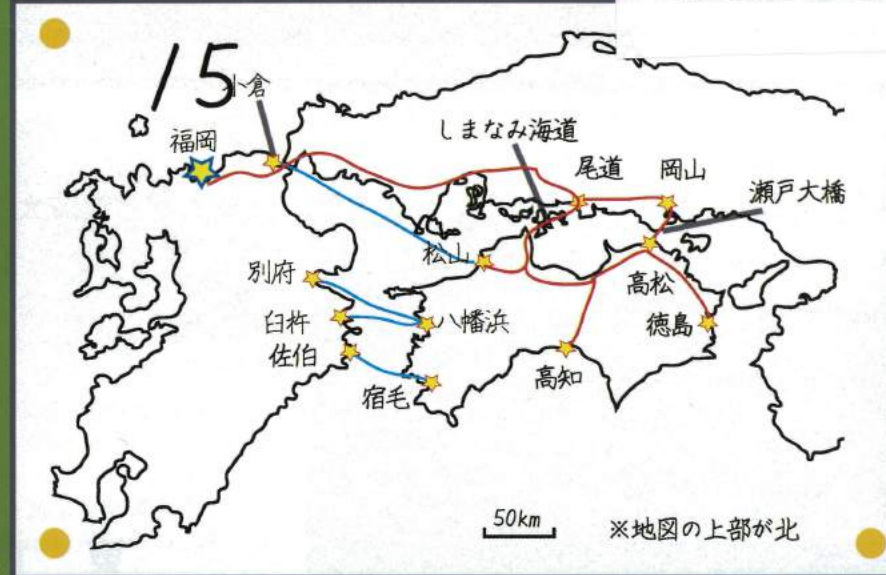
協賛企業 株式会社新来島どっく

九大前不動産株式会社



九州から四国

「九州から四国へって、どうやっていけばいいの？」
そうきかれることは、県人会メンバーあるあるです！笑
そこで、今回は編集長が独断と偏見で選んだおすすめア
参考にしてみてください。



〈松山市〉

小倉や別府等から出ているフェリーがおすすめです。

夜に九州をでて朝に四国につく便に乗れば、宿泊と移動を一気にできます。

車に乗せれば、四国での移動も便利\(^o^)/

瀬戸内に浮かぶ島々の綺麗な景色を楽しみたいなら、

しまなみ海道経由で車・バス・自転車で今治から四国に入るのも Good !

〈高松市・徳島市・高知市〉

瀬戸大橋経由で高速道路・岡山から特急列車で四国上陸がおすすめ(^ ^)

九州四国間のフェリー乗り場の多くは、愛媛県西部にあるため、

他県の県庁所在地に行くには少し不便です・・・。

高知県西部に行く場合は、佐伯～宿毛のフェリーもアリですよ～

ここで紹介したのは一例です。

場所や予算や車の有無などによって、他にもいくつか行き方があります！！

もし、行き方に迷う場合は、県人会にぜひご相談ください！

九州大学四国県人会メールアドレス：quyonken@gmail.com

お詫びと修正

QUARTET 8号を手にとっていただき、誠にありがとうございます。本冊子の14ページの地図内に「15」という数字が入っておりますが、そちらは不要なものですので、ないとお考えの上でお読みください。最終修正の段階でのミスにより見にくい図表となり、読者の皆様にご不便をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。



九州大学四国県人会 QUARTET 第8号 編集長 田辺梨紗



SHIKOKU
KENJINKAI
of Kyushu University